第 9 回「臺日文化交流教室」

講　題 / 演　題：

桂歌之助 20 周年記念落語表演會

段子一《動物園》（中文表演）

段子二《桃太郎》（日文表演）

演講人 / 講演者：

桂歌之助（落語家）

演講摘要：

透過這次的公演，我想傳達給學生們以下兩件事。

落語是個只由演出家獨自唸出登場人物台詞的表演。也就是聽者的想像力將作爲一個稜鏡，把最小限度的語言表現，化作無限的世界投影到腦中的布幕上。在此想請大家重新認識，在凡事追求貼近眞實的現代社會中，能將最小值擴展至無限大的人類的想像力，是多麼了不起的一種能力。

講演摘要：

私は今回の公演を通じて、学生の皆さんに二つの事を伝えたかった。

落語は、演者一人で登場人物のセリフを喋るだけ。言わば最小限の表現を、聴く人の想像力をプリズムとして無限の世界を頭の中のスクリーンに投影する。よりリアルなものを求める現代において、最小を無限に拡げる人間の「想像」という能力の素晴らしさを再認識して貰いたかったのが一つ。

▲辻本雅史教授與桂歌之助先生合影。

第 9 回「台日文化交流教室」

2017.02.21

▲學生提問

對於此次的公演，我常常站在觀衆的立場，一邊想像究竟該如何做才能將落語傳達給台灣的人們，一邊做著相應的準備。另一方面，因爲落語只藉由台詞來說故事，剛開始還很難了解故事內容，但學生們耐著性子仔細聆聽，到最後理解了完整的故事後，笑聲自然此起彼落。這代表了溝通成功。當我們想要傳達自己的想法時必須考慮對方的立場，反過來身爲傾聽的一方時，即便一開始無法理解，也要試圖推敲對方的想法並且耐心聆聽。在座的莘莘學子們，今後將要接觸世界中擁有各式各樣想法的人，因此透過這次的表演讓大家體會溝通的基本，便是我想傳達給大家的另一件事。

落語是否成爲了各位的新體驗呢？對我來說，此次的公演是我終生難忘的美好經驗。衷心感謝各位的協助與蒞臨。✦

私は今回の公演に向けて、どうしたら台湾の人達に落語を伝えられるか、常に相手の立場を想像しながら準備をしてきた。一方、落語はセリフだけで話が進むので物語の序盤は内容が分かりにくいのだが、学生の皆さんはそこを辛抱して耳を傾けてくれ、最後には物語全体が伝わって笑いが起こった。つまりコミュニケーションが出来たのです。自分の考えを伝えるには相手の立場を考える。伝えられる時には、初め理解出来なくても相手の考えを推し量りながら我慢して耳を傾ける。これから世界中の様々な考えを持つ人達と関わるであろう学生の皆さんに、このコミュニケーションの基本を体験して貰いたかったのがもう一つ。

落語が皆さんに新鮮な体験となったでしょうか。私にとって今回の公演は素晴らしい経験で終生忘れる事はないでしょう。関係各位の方々には心から御礼申し上げる次第です。✦

第 10 回「臺日文化交流教室」

講　題 / 演　題：

顏家與二二八事件

—活過臺日兩地的家族被奪走的一切

演講人 / 講演者：

一青妙（作家）

演講摘要：

在戰前的台灣，以九份一帶爲中心經營金碳礦業，被稱爲五大家族之一的基隆顏家之長男的父親——顏惠民，雖然在接受日本人教育後回到台灣，卻又在數年後偷渡逃到日本。

228 事件發生後不久的當時，父親到底目擊到了什麼，採取了什麼樣的行動？始終苦惱於自我認知的父親未多作敘述便撒手人寰。我尋著父親的足跡，透過收集當時的資料及台灣大學地質系同級生的口述，得知了

講演摘要：

戦前の台湾で九份を中心とした一帯で金鉱や炭鉱を経営し、「５大家族」の一つに数えられた基隆顔家の長男だった父・顔恵民。日本人としての教育を受け、戦後まもない台湾に戻ったが、数年とたたず、日本へ密航で逃げ出した。

228事件直後という時期に父は何を目撃し、どんな行動を取ったのか。アイデンティティに悩み、多くを語らずに早逝した父の足跡をたどり、当時の資料や台湾大学地質学部

▲辻本雅史教授

▲一青妙女士

第 10 回「台日文化交流教室」

第 10 回　2017.03.10

祖父被通緝，父親和友人也陸續被當局逮捕等事實，並了解到顏家一族所面對的時代變化及悲劇之眞相。✦

の同級生たちの証言も集めながら、祖父が指名手配を受け、父も友人が次々と当局に連行されるなど、顏家一族が直面した時代 の変化と悲劇の真相に迫る✦

講　題 / 演　題：

我在華語圈 45 年職涯

－與在台普及商務日語能力測驗的理念

演講人 / 講演者：

山本幸男

（日本漢字能力檢定協會台灣區顧問）

演講摘要：

我在商社職員的人生中，大半時光都與中國有著深厚的緣份。特別是在中日貿易黎明期的 1980 年代，我在中國生活與工作中經歷許多事件，以及親眼見證 90 年代以後

講演摘要：

商社マンとして会社生活の大半を中国との関りで過ごしてきた。特に日中貿易の黎明期1980年代に中国での生活や仕事で曲折を経験、また90年代以降は中国が高度成

第 11 回「臺日文化交流教室」

▲山本幸男先生

的中國邁入高度成長的瞬間。藉由這20年間在工作現場實際看到中國與日本在社會與文化上的不同而訝異的同時，也察覺到中國發展上的可能性與極限。

2008 年之後我將生活重心移到了台灣，開始以三角視點來看待日本、中國、台灣之間的關係。台日在歷史上有著特殊的聯繫，日本在未來若要與持續壯大的中國並駕齊驅，相信台日的攜手合作對雙方肯定是有益的。只是，在台日民間交流方面，長期是台灣單方面擁有高度熱情，雙方在相互理解上有著很大的溫度差異。

直到 2011 年的 311 大震災爲契機，台日間的親密度增加了不少。雖然最近兩國人

長に離陸せんとする瞬間を目の当たりにしてきた。この20年間を通し中国と日本の社会や文化の違いをその現場で見てきたことは大きな驚きであると共に、中国の発展の可能性と限界を感じていた。

その後2008年以降台湾に生活の場を移してから、日本～中国～台湾を三角関係で捉えて見るようにしてきた。日台は歴史的な特別な繋がりがあり、今後膨張する中国と伍していく上でも日台の連携は相互のメリットと感じている。唯、日台交流は庶民レベルでは長期に亘り台湾側の片思いであった部分が大きく、相互理解では大きな温度差があった。

漸く、2011年の311大震災を契機に日台の親密度が濃くなってきており、最近は人的往来も急速に拡大し相互理解は大いに是正されてきているが、それでも日本側の台湾理解不足の面がまだまだ否めない。この

第 11 回「台日文化交流教室」

2017.06.02

民之間的往來急速增加，使得兩國間的相互理解有著很大的進展，但依然無可否認日本對於台灣的認識仍舊不足。造成這樣的溫度差的主因，我認爲很可能與日本的學校教育以及媒體的報導角度有很大的關係，亦不諱言主要的課題還是在日本。

▲來賓提問

另外，由於日本的少子高齡化日益嚴重（相信不久之後台灣也將面對同樣問題），爲塡補人才不足並維持國家的活力，靈活運用外國優秀人才更是不可或缺的考量。在這樣的考量下台灣與日本雙方有著極佳的配合度，能達成互補的優勢，因此促進雙方交流十分重要。更甚者對於日本來說，包含台灣在內的亞洲有著能夠吸納日本的「盛情款待」文化的良好基礎，藉由彼此間的交流也能建立起新的友情與羈絆。爲此，培養其他國家能以日語溝通表達的人才更顯其重要性。特別是台灣的日語世代已經逐漸減少，我想呼籲新一代的年輕人傳承漂亮且正統的日語。一方面鼓勵日本年輕人學習英文跟中文，另一方面促進包含台灣在內的亞洲國家，能夠普及日語，我認爲這應是今後要努力的方向。

藉由這次的演講，與各位同學分享我個人在中國的親身經驗，也談談台日交流的現狀與課題。在此同時，我更期待各位能夠肩負起今後台日交流的任務，更加磨練自己的日語並在未來大展身手。✦

温度差ギャップの主な原因は日本の学校教育やメデイアの報道姿勢によるもので主な課題は日本側にあるかと思っている。

又、今後急激に進む日本（いずれ台湾でも）の少子高齢化による人材不足補填と国の活力の維持のため為には外国優秀人材の活用が不可欠と考えられる。その中で台湾と日本は相性もよく相互補完的意味合いもあり交流促進が重要と考える。更には日本にとって台湾含むアジアでは日本の「おもてなし」文化などの伝統的価値観が受け入れられる素地も大きく、そういった交流を通じて新たな友情と絆が築いていかれると考える。その為には相手国側での日本語による意志疎通が出来る人材育成が重要となってくる。特に台湾では日本語世代が少なくなっていく中で、若者には綺麗な本格的な日本語の伝承を呼びかけていきたい。日本の若者には英語と中国語を、アジアや台湾では日本語の普及促進を進めていく、これがこれからの方向ではないかと思っている。

今回の講演を通じ、学生の皆さんに私の中国経験も参考として頂きながら日台交流の現状と課題の話をするとともに、今後日台の橋渡しの担い手として一層の日本語の磨きをかけて活躍されんことを期待している。✦